これからの情報活用最前線! ODMとは?

UNIRITA •

Magazine

ユニリタマガジン

2-3

EB-MAR 2016

情報活用は、課題解決を 仕組み化=ODMするフェーズへ

(Operational Decision Management)

ユニリタの新ビジネスコラム 〜攻めのIT編〜 「攻めのIT」で使われる技術は、 情報システム部門でも使えるのか?

帳票クラウドソリューション 「雲票/unpyo」(うんぴょう)のご紹介

システム管理者の会/Beaconユーザ会

第33回 Beaconユーザ シンポジウム 出展パートナー様一覧



ユニリタ イメージキャラクター ホラン千秋

情報活用は、課題解決を 仕組み化=ODMするフェーズへ

(Operational Decision Management)



情報活用は、データをもとに判断するフェーズから、 仕組み化して継続的に改善するフェーズへ

これまでの情報活用は、『あるべき姿』と『実態』のギャップを 検証するためにデータの数値化・指標を作成することで進められて きました。これは実態を数値により表し、見える化するものです。

これらの情報をもとに判断・洞察を行い、業務オペレーションを 展開することで、課題の把握・課題解決を推進し、業績向上に至り ます。しかし、この様な「活用する情報→アクション→効果測定・ フィードバック」までをとりまとめて、これらの管理業務をシステム 化することを達成しているケースはまだまだ多くありません。

もちろん、ビジネスは定型的なプロセスで全てが解決する訳では ありません。M&Aや事業撤退などの予測困難な事態に対処しなけ ればならないケースもあります。

しかし、これら以外の日常の業務オペレーションに関わる「判断 業務→意思決定→アクション」を、ビジネスプロセスの制御・管理 を通して、迅速且つ確実に遂行する仕組みを構築することにより、 一層のパフォーマンス向上がもたらされます。これは管理品質の底 上げとも言えます。この手段としては、制御・管理するKPI(Key Performance Indicator) とそのビジネスプロセスを「見える化」、「自 動化」することにより、属人的でなく、一層効率的なものへ継続的 に改善・改良して提供していくことが望ましいと言えます。

情報活用を仕組み化するアプローチの勘所は以下になります。

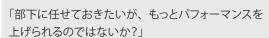
- ①管理視点と業務オペレーションの「見える化」「標準化」
- ②ナレッジ共有と、管理指標に沿った適正な業務オペレーション の遂行による属人化の排除
- ③システム連携・連動による業務オペレーションの自動化
- ④管理業務にかかる人件費や工数(人手)の削減
- ⑤日常の業務オペレーションにおける意思決定のスピードアップ

属人的なビジネスプロセスを システム化する

経営層の方々から「管理をシステム化したい」といった要望をよ く伺います。

例としては、

「東京の管理者の実施内容を、上海の総経理や シンガポールのマネージャにも徹底したい」





優秀なマネージャや管理者により「管理する」機能が有効に働 いている間は安心ですが、オーソリティにより視点や内容が異なっ ていたり、「管理する」という仕事が属人的になっていることへの危 惧から、上記のような要望が出てくるのではないのでしょうか。

経営層の方々は、業務オペレーションに関わる「判断業務→意思 決定→アクション」のビジネスプロセスを確実に遂行する仕組みの 構築を望まれています。

伝票(トランザクション)系処理の 業務プロセス設計を情報活用へ応用する

実際、伝票(トランザクション)系処理の業務プロセス定義につ いては、例外無く、標準化・承認プロセス設定・イレギュラーケー ス対処など、ビジネスプロセスの制御・管理を定義します。しかし、 前述のような情報活用の見える化や情報リテラシーについては、あ まりこのような取り込みが実施されていません。残ったドキュメント と業務引継では限界があるのかもしれません。それはリテラシーの 部分がシステムとして取り込まれていないがためです。アウトプット 作成だけでなく、これらを活用しての「判断業務→意思決定→アク ション」というビジネスプロセスの制御・管理もシステム化に盛り 込む必要があります。

阻害要因としては以下が考えられます。

- · 収益性 · 採算性/達成度合/伸長度合/生産性/比較等、 計数・管理指標が多岐にわたる
- ・ビジネス判断に有用な各種の計数・管理指標を整理しきれない
- ・ビジネス自体や商品ごとのステージに対する異なる管理視点 対応が必要、また時間経過とともに変化・変更も求められる
- ・様々なセグメンテーション=軸/切り口がある
- ・商品シリーズ別採算管理(PL)など、現有システムで実現 出来ていない粒度(メッシュ)での管理視点がある
- ・グローバル対応など、横串での情報活用が出来ていない
- ・想定される業務オペレーション/アクションを決めきれていない

アウトプット(作表・帳票)定義作成を すっかりしなくなった現状

現状のシステム開発においては、EUC(End User Computing) でのアウトプット作成となることも多く、きちんとアウトプット(作表・ 帳票)定義を作成していないケースも見受けられます。かつてのシ ステム開発においては、定義書(以下の項目を含んだドキュメント) をきちんと作成していました。

- ①アウトプットid:名称、タイトル (ヘッダー)
- ②目的(管理目的、戦略指標/プロセス指標&しきい値~ 想定アクション)
- ③オーナ組織・管掌部門、利用ユーザ(および利用制限等)
- ④提供/利用サイクルとタイミング、形態(オンデマンド(UI), バッチ(PDF,XLS,CSV))
- ⑤データソース~データ項目&粒度(メッシュ)、 関連情報(業務・データフロー図)

特に「②目的(管理目的、戦略指標/プロセス指標&しきい値~

想定アクション)」が重要であり、それらがもたらす想定効果の見通しと作成にかかる工数・費用とのROIについても同時に検討されてきました。

しかし、これらの成果物も時間経過とともにメンテナンスされず、現状との乖離が生まれていき、最終的には活用されなくなってしまうケースも多く見受けられます。これにより、アウトプットだけが残りながら、そもそもの目的やそこからのアクションが不明確になり、次第に使われないシステムへと遷移します。

情報リテラシーの高いオーソリティが実施する管理業務プロセスや ノウハウが埋め込まれた当初の意義が継承されていかないのです。

さらに、一般企業においては、ジョブ・ローテーションの関係から、就任から3年経過にて異動=ジョブ・ローテーション対象となり、最長5年で人事異動となるケースが多く見られます。こちらも継承性が確保されない要因のひとつとも言えます。

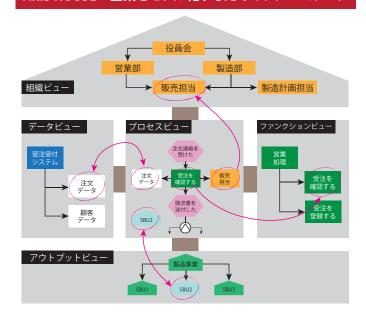
「ARIS」活用 for ODM

(Operational Decision Management)

「ARIS」はユニリタが提供するBPM(ビジネスプロセスマネジメント)ツールです。

業務プロセスは、「組織」が提供する「ファンクション」によって「データ」を変換しながら、何らかの「アウトプット」を生み出す一連の活動です。この定義をそのままモデリング手法に適用するのが「ARIS HOUSE」のフレームワークです。「組織」、「ファンクション」、「データ」の構造を整理した上で、これらの企業資産を「アウトプット」の種別ごとに時系列に沿って組み合わせることによって「プロセス」を描きます。「組織」、「ファンクション」、「データ」、「アウトプット」が「プロセス」を通じてどのように関連し合うのか?という事を正確に表現することができます。

ARIS HOUSE:企業をモデル化するためのフレームワーク

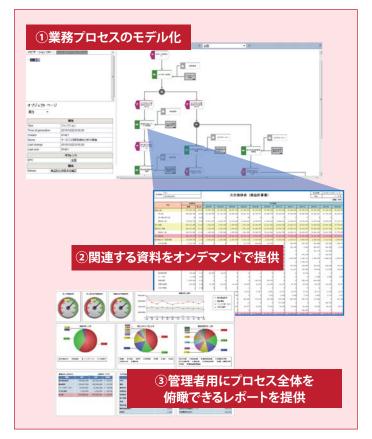


「ARIS」を、業務プロセス定義の分野に留まらず、管理視点から情報活用、業務オペレーションへのプロセスを設計・仕組み化する分野への活用が有効です。5W1Hに抜け漏れなく、個人差の少な

い業務フローを描くことができます。

『ARIS』記載の業務プロセスにおいて、各種の計数情報や指標(およびしきい値)が、管理視点からの切り口で連携され、ユーザに提供されます。ハイパーリンク設定による連携で、業務プロセスに沿ったアウトプットがオンデマンドでユーザに提供されます。これにより、情報リテラシーの高いオーソリティが実施する管理業務プロセスを仕組み化し、広く管理業務の質を向上することが出来ます。結果として、管理視点の標準化を実現し、早期の課題解決を通した業績向上を実現します。

以下にユーザ操作イメージを紹介します。日次・週次・月次など それぞれのジョブ・ディスクリプションに対応した業務プロセスのフローとともに、必要な情報を入手・活用することができ、必要な業 務プロセスへの連携・連動も表現・実装されていきます。



担当者紹介



営業本部 東日本営業二部 コンサルタント 奥村 誠悟

私は大学卒業後、新卒で一部上場製造業に就職し、経理部門、IT部門、 グローバルビジネス管理部門などで

の業務を経て、現在に至るキャリアを持っています。この 経験を活かして、ビジネスサイドにおける視点からのIT活用 や課題解決に向けた様々な分野の情報発信を心掛けて参り ました。今後も、お客様の実業務に役立つユニリタのソ リューションをお届け致します。

ユニリタの新ビジネスコラム ~攻めのIT編 第2回~

「攻めのIT」で使われる技術は、

情報システム部門でも使えるのか?

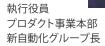
新しい技術を上手く使って効果を出すために



本マガジンの読者の多くは、情報システム部門に属している方々かと思います。以前のコラム(ユニリタマガジン 10 月号『コスト部門からの脱却!情報システムはプロフィット部門に!!』)で解説した通り、情報システム部門は止まることが許されない会計システムや生産管理といった基幹システムに対する「守りと維持の IT」を担っています。この役割は非常に重要であるものの、長い年月をかけて IT 化してきたこともあり、多くの部分において標準化・ルール化が徹底され、安定稼働しているのが現状です。情報システム部門が担う基幹システムは、安心・安定で最適なコストによる継続稼働が大きなテーマです。このテーマが大きいが故に、新しいことへの取り組みに対しネガティブになる傾向も強く、維持と管理に集中してしまい、結果的にコスト部門と見られるケースが多くなっています。

担当者 紹介

結城 淳



エンタープライズにおける 積極的なオープンソースの 活用を支援いたします。

このような情報システム部門の状況とは逆に、他の事業部門やマーケティング部門などは最新の IT を積極採用することでビジネスにイノベーションを起こし、新たな成果を出し始めています。企業が売上や利益を増加させるために IT を活用し、ビジネスにイノベーションを起こす取り組みを経済産業省も「攻めの IT」と定義しています。本コラムでは、前回に引き続き「攻めの IT」を詳解するとともに、「情報システム部門での利用」を考察していきたいと思います。

1. 利用技術の移り変わり

情報システム部門と、「攻めのIT」に取り組む部門は分離している企業が大半です。詳細は前回のコラムで解説していますが、守るために必要なITと、攻めていくために必要なITでは、根本的に求める機能や性質が異なるところに起因しています。この分離は企業から見れば決して好ましい状況ではありません。

メインフレームの時代からクライアントサーバ型へと変化した90 年代によく似た状況のように感じます。当時の情報システム部門は、メインフレーム技術者中心の組織でした。クライアントサーバ技術は90年代前半に出てきていたものの、OSの違いやハードウェアの可用性など、情報システム部門の特に運用部門ではネガティブな反応が多い状況でした。しかし、情報システム部の中でも開発に携わる部門では、メーカーやベンダーと協力し、操作性の向上やPC普及に伴うインターフェースの改善など、積極的に新しい技術を採用し、各種システムを構築してきた歴史が存在します。

この時代から、情報システム部の中で「開発」と「運用」の分離が始まりました。開発は新しい技術で新しいシステムを作るものの、運用が既存の標準化やルールに合わないため受け入れない。最終的には基幹システムの刷新というタイミングで、周辺系の仕組みも含めて標準化され、新しい技術へと統合された流れは、現在の情報システム部門と事業部門の双方で異なるITを活用している事に似ているように感じます。このようなテクノロジーの変化をベースに組織と利用技術の移り変わりを整理したのが図1となります。

メインフレーム全盛時代 (1980年~) 情報システム部 メインフレーム(MF) クライアント・サーバ時代 (1990年~) 情報システム部 運用 MF 分 性 サーバ (主にUNIXとWindows) Web時代 (2000年~) 情報システム部 運用 基幹システム 角辺系、情報系の開発主にJava) クラウド時代 (2010年~) 情報システム部 基幹システム 事業部門、マーケティング部など laaS、SaaS、OSS、IoT

図 -1. 組織と利用技術の移り変わり

2. スモールスタートの手法で課題を解決

情報システム部門は継続的なコスト削減も大きな役割として担っています。企業を支える重要かつ大規模な基幹システムは、システムの大きさに比例して莫大なコストも存在しています。安心と安定を継続していくためには、メーカーやベンダーによる保守は必要不可欠なものの、機能や技術が一般化したものは歴史的な技術の変化の中で、より良く安価なものへと見直されています。

近年ではサーバ監視製品の高額な保守費用をオープンソース(以下、OSS)へと変更することで、大きくコスト削減を実現した事例が増加しています。ユニリタでもジョブ管理製品の「A-AUTO」にOSSの監視製品である「Zabbix」を組合せ、お客様のコスト削減を支援するサービスを提供しています。

OSSのサーバ監視製品はエンタープライズでの採用実績も増加しており、基幹システムのアプリケーションを変更するような影響もありません。極めて低いリスクでリプレイスが可能であり、且つ、OSSのためライセンス無償、サポートも複数ベンダーがサービスとして提供しています。ローコストで短期に試してみて、効果が確認できたらスケールアウトする。この様な流れ(図2)は、「攻めのIT」で取り組まれるスモールスタートの一般的な手法です。情報システム部門においても、サーバ監視製品のコスト見直しにおける製品リプレイスでは、このような最新技術と取り組みによって成果を出し始めています。



図 -2. スモールスタートイメージ

3. 新しい技術を目的に合わせ効果的に活用

今回のテーマである「攻めのITで使われる技術の情報システム部による効果的な利用」を考えると、2つの利用が存在すると考えます。 そのうちの1つは、前章のような情報システム部門の課題解決に利用することです。

2つ目は、事業部門のコア事業によって売上や利益拡大を実現するIT、つまり「攻めのIT」そのものです。多くのエンタープライズ企業では、事業部門が必要とするIT化に対し、情報システム部門が関わらないケースがほとんどです。理由は、長いこと担ってきた基幹システムを中心とする標準化やルールが適応できない新たなテクノロジーが求められているためです。

事業部門の希望を情報システム部門が実現してあげることはできないでしょうか?もちろん、既存の基幹システムに対する守りと維持の役割を放棄することはできません。2~3 名くらいの人員の役割を変更し、IT のプロである情報システム部門からプロジェクトメンバーを選出、「攻めの IT」で利用が拡大する技術をベースに、事業部門が実現したいことをクラウド、OSS、SaaS などで開発することはできないでしょうか?そもそも、情報システム部門とは、企業の戦略や課題に対し IT を用いて業務プロセスをイノベーティブに改善することが役割であったはずです。事業部門から「販売促進に向けて新たなWeb の仕組みを構築したい」、「会員サイトも構築し利用者へダイレクトに情報をレコメンドして売上増加へとつなげたい」と相談されたらどうでしょうか?基幹システムで培ったルールを適応しますか?それでは使われないシステムになるだけだと考えます。

 ビジネスに IT を活用する エンタープライズ企業



テクノロジーの河

図 -3. 情報システム部門の役割を見直し

「攻めのIT」で利用が一般化し多くの成果が確認され始めている事例パターンを1つご紹介します。BtoCやBtoBtoCの企業において事業部門が担当する商材やマーケティングによる売上拡大は本業における重要な課題です。これらの課題へ最新のITを活用したローリスク、ローコストでの取り組みが増加しています。購買や利用の情報をWebシステムからログとして継続的に収集したいのでFluentdを使う。収集したデータは蓄積して分析したいのでElasticserchに格納する。格納したデータをkibanaで簡易的に見える化する。成果が確認できたら基幹の顧客情報と連携したいのでGoCutoを活用してAPI経由で連携する。Fluentd、Elasticserch、kibana、GoCuto、いずれもOSSとして提供され無償で利用可能なツールです。

商用ツールでも実現可能です。しかし、サポートの有無を除きおよそ全てのことはOSSで実現できます。OSSはダウンロードすればいつでも使いたい時に、使いたいだけ、無償利用できます。同じことを商用ツールで実現しようとすると、見積もりが必要となり、時間もかかり、大きな費用も発生します。商用ツールの選択は成果が出ることが確認できてからで良いのではないでしょうか?重要なのはいち早く課題へと取り組み、ローコスト、ローリスクにて成果を確かめ、成果が確認できたところで一気にスケールアウトすることではないでしょうか?このような取り組みは、「攻めのIT」において普通に行われています。しかし、実際に取り組んでいるのは情報システム部門ではなく、事業部門が相談する外部のインテグレータであるケースがほとんどです。このように利用が一般化し始めた技術に対してはOSSであっても情報システム部門がイニシアティブをもって技術を吸収し、企業のコア事業へと貢献する役割へと変化することはできないでしょうか?

ユニリタでも新しい技術を積極的に採用し、OSSツールのGoCutoをリリースしました。GoCutoはクラウド上の複数インスタンス間、OS間を簡単にプロセス連携し、先進的な技術を組み合わせてひとつのサービスとして利用することを可能にします。近い将来、仮想化の主流がコンテナへと変化しますが、DockerとGoCutoを組合せることで複数のコンテナ間の連携も簡単に実現できます。その他、各社での開発が進むSoEの仕組みとSoRを連携するなど効果的な用途が拡がります。コスト部門と言われて久しい情報システム部門ですが、このタイミングで企業の売上と利益を作り出すプロフィット部門へと変革することをユニリタがお手伝いいたします。

用語解説

OSS ツール	機能概要
GoCuto (ゴーキュート)	ユニリタが開発し提供するプロセス連携制御ツール。クラウドのインスタンス間、クラウドとオンプレミス間などにおいて発生するプロセス連携をダイナミックに実現。
Fluentd (フルエントディー)	トレジャーデータが開発し提供するログ転送と集約を実現するツール。Webシステムや攻めのITにおいて数多く利用されている。
Elasticserch (エラスティックサーチ)	Elasticserch 社が開発し提供するログやデータの分析を実現するための全文検索エンジン。Fluentd による収集の格納先として数多く利用されている。
Kibana (キバナ)	Elasctiserch 社が開発し提供するログデータの可視化を実現するためのツール。Elasticserch との組合せによる連携にてログデータなどから簡単にグラフ化などが可能。
Docker (ドッカー)	Docker 社が開発し提供するコンテナ型の仮想化を実現するためのツール。新たな仮想化技術として注目されるコンテナの利用において高い注目が集まっているツール。



Process Management as Code で複数のサーバ、サービス間のプロセス連携制御を実現する、多くの実績を持つメーカー、ユニリタ発の国産 OSS「GoCuto(ゴーキュート)」

GoCuto Q 検索

柔軟な拡張性を持ったクラウドサービスにより、 帳票の運用をもっと早く簡単に、もっと低コストで

帳票クラウドソリューション「雲票/unpyo」(うんぴょう)

ユニリタは、基幹業務に求められる厳しい要求に対応するため、長年にわたって各種帳票アプリケーションの提供とシステム構築 の支援を続けてきました。それにより培ってきた帳票アプリケーションとシステム構築から運用ノウハウまでをパッケージ化し、ITシ ステムおよび帳票に関する様々な課題を解決する帳票クラウドサービス「雲票 /unpyo」の提供を開始しました。

情報システム部門を取り巻く帳票に関する課題

●情報システム部門の課題

現在の情報システム部門は、IoT、ビッグデータ、モバイル活用といった企業価値を向上させる攻めのITの台頭によって、要求 範囲が拡大していますが、一方で現状の業務への対応で手一杯というケースも多くみられます。

●基幹システムの課題

基幹システムの更改や移行時の課題として必ず上がるのが帳票です。帳票は利用者の業務に密接していること、また、完全に 代替えできる媒体が存在しないことから、どうしても紙への印刷・仕分・配送など、煩雑な部分が残ってしまいます。

●基幹システムマイグレーション時の課題

メインフレームのロジックを変更せずにオープン系に移行するストレートコンバージョン方式は、短期間、低コストで対応で きる利点がありますが、メインフレームの運用方式が残ってしまうことが多く、その場合、担当者の負荷は軽減されません。 また、メインフレーム形式の印刷データをオープン系で処理する仕組みが必須になります。

●帳票のアウトソーシングにおける課題

煩雑な帳票の出力部分をアウトソーシングするケースが多くなっていますが、ユーザの手元で帳票デザインの修正やテスト ができず対応に時間や手間が掛ること、設計を含め外部に依存してしまうなどの弊害も出ています。

●BCP 対応の課題

BCP に対するニーズは大きな経営課題となっていますが、基幹業務においても、単に情報システムを多重化するだけでなく、 帳票の最終的な印刷プロセスであるアウトソーサの多重化を含めて慎重な検討が必要となっています。

雲票/unpyoとは

メインフレームのデータからオープン系のデータまでを直接 取り扱い、帳票の生成・コード変換・仕分け処理・紙への印刷や 電子化・配送まで、帳票に関係する処理をワンストップのクラ ウドサービスとして提供します。

これにより、ITインフラを所有していなくても、帳票システム や運用管理機能のメリットを享受できるとともに、帳票をユー ザに提供するまでのプロセスを含め、利用シナリオの多様化に も貢献します。

SAP cloud IJ お客様 雲票利用者 印刷アウトソーサ 65 10

雲票/unpyoの特徴

①ベストプラクティスを構築済みで提供



数々の帳票システムのマイグレーションで培った経験を活かし、帳票 システムで必要となるコンポーネントをベストプラクティスとしてク ラウド上に構築してあるため、設計・実装・テストにかかる工数を大 幅に削減します

②使いやすい価格体系



1. 定額提供方式

雲票 /unpyo は、基幹業務で必要とされる機能を標準装備し、これを 定額、且つ、月単位で利用することができます。

2. オンデマンド提供方式

BCP 対策など、必要なときに必要なだけ利用することができます。

③システム間連携



クラウド上に帳票データを一元管理できますので、既存のオンプレミ ス環境、各種他社製品、クラウドサービスや印刷アウトソーサ等と柔 軟に連携が可能です。対応スピードの向上、TCO の削減、ハイブリッ ドクラウドへの対応など、様々な課題を帳票面からサポートします。

④クラウドによるメリット 🥌



スケールを意識せずにクイックスタート、スケールアップが可能です。 また、ハードウェアの更改、OS やアプリケーションのサポート切れ などを気にする必要もありません。

雲票 /unpyo ソリューション

①雲票 for BCP

帳票システムの BCP 環境を提供します。アプリケーションやインフラのみならず、実際に帳票を紙に印刷するプリ ンティングセンターを首都圏と関西圏に分散するなど、クラウドと合わせて完全な分散災害対策環境を提供します。

②雲票 for 開発環境

お客様が既に利用している帳票システムの開発環境を新たにクラウドサービスで提供します。これにより、本番環境 に影響を与えることなくシステムの開発や評価が容易な環境を低コストで実現できます。

システム管理者の会

システム管理者の会 オリジナルLINEスタンプができました!



システム管理者の会では、会員の皆様から広くアイデアを募集し、システム管理者のみならず IT に携わるたくさんの方々に広く使っていただけるオリジナル LINE スタンプを制作しました。

●スタンプの原案はシステム管理者としての日常の思い・・・

スタンプにしたいアイデアを会員の皆様から募集したところ、たくさんのご応募をいただきました。その中から、「ping が通らない・・・」「マルチコアではありません」といった IT に携わる方にしかわからないニッチなものから、「OK」「ありがとう」といった日常的に使えるものまで全 40 種類を採用し、プロのイラストレータに作画を依頼しました。

●キャラクターはおなじみの IT 和尚!

そんなシステム管理者の心の声をスタンプで代弁するのは、システム管理者の会ではおなじみのキャラクター、愛亭智念(あいていちねん)こと IT 和尚です。心和ませる容姿からは想像もつかない表情やユーモラスな表現で、時には悲哀に満ちたシステム管理者の思いを体現してくれています。

IT に携わる日常で起こりうるさまざまなシチュエーションや思いを 形にしたスタンプとなっています。 ぜひ皆様の LINE でもご利用いた だければ幸いです。 詳しくは、「システム管理者の会ポータルサイト」をご覧ください。

システム管理者の会

Q檢索

Beaconユーザ会

平成28年度研究部会メンバ募集開始

Beacon Users' Group

Beacon ユーザ会では、1 年間に渡って最新技術やシステムの管理手法、情報活用などの IT 部門に関わるさまざまなテーマについて研究を行う研究部会活動を IT 部門の人材育成・人脈形成の場として提供しています。

来年度の研究部会活動が 5 月から始まるのに合わせて、研究メンバの募集を開始しました。今年もさまざまな研究テーマをご用意して会員の皆さまの参加をお待ちしています。

また、マネジメント層向けの研究グループもありますので、こちらも是非、異業種交流・情報交換の場としてご活用ください。Beacon ユーザ会会員であれば 1 社何名でも参加可能です。 お申込み方法と平成 28 年度の全国の研究テーマはユーザ会ホームページにて公開しています。

●全国の研究部会代表 ご挨拶

東日本情報活用 中部システム運用 研究会活動を行うことで、将来に渡り心の底から本音で話し 異種業種の IT 業務メンバが集まり、1 年を通して議論に議論 研究部会代表 研究部会代表 合える仲間を作ることができます。また、1年間の活動を通 を重ねて研究を纏め上げ、成果物として研究を発表すること して1回りも2回りも人として成長することができます。参加 でITスペシャリストとして大きな自信と責任感が身につきます。 BI-Style 株式会社 株式会社豊通シスコム される事を心よりお待ちしております。 部下を大きく育てましょう。 坂本 克也 小林 浩一 西日本情報活用研究部会は、その活動方針として昨今の最 東日本システム運用 西日本情報活用 研究活動を1年間続けることで知識を高めることができます。 新テクノロジーや業務改革には欠かせないテーマを、実際の 研究部会代表 研究部会代表 さらに異なる会社・業種の方たちと一緒になって活動すること 現場で本当に役立てる、あるいは本当に役立つものは何か により、人脈の輪も広がり、これからの大切な財産になります。 を深く追求して行く事を掲げております。研究会を通して上っ 株式会社リコー 皆さん奮って研究部会に参加してください。 ユニチカ株式会社 面の思考ではなく、深く追求する姿勢を求め、洞察力を磨い 中俣 幸二 お待ちしております!!! 近藤 寿和 ていける機会をご提供致します。 中部情報活用 西日本システム運用 この研究会に参加することで、新しい技術や知識の習得以外 脳は情報を集め、伝達する事で刺激を受け成長するものだと 研究部会代表 研究部会代表 にも、研究活動を進める中でコミュニケーションスキルが向 思います。研究の中では、聞く・話す・考えることを繰り返し、 上するという効果があります。 普段、出会えない経験ができます。脳は刺激を受けて、ひら 株式会社 トヨタ情報 一味も二味も違う当研究会にぜひ一度、部下の方を参加さ CAC オルビス めき、成功する。 システム愛知株式会社 せてみて下さい。 この成功体験を一人でも多く味わって欲しいと思っています。 神野 嘉高 坂元 弘樹

● 詳しくは、「Beacon ユーザ会ホームページ」をご覧ください。

Beacon ユーザ会



プラチナスポンサー

ニッセイ情報テクノロジー株式会社



株式会社日立ソリューションズ

Hitachi Solutions

弊社は、日本生命グループの IT 戦略を担う会社として 1999 年に 設立されました。以降、グループ内外の 幅広いお客様へのご支 援を行う中で経験を積み、高度な専門性と業務ノウハウを蓄積し てまいりました。

「活文」シリーズの、「電子帳票システム」「企業間情報共有シス テム」を中心に、マイナンバーを含む法定調書の保管や、組織 間の協創を支援する情報共有基盤の事例などをご紹介します。

ゴールドスポンサ-

株式会社アイ・アイ・エム



株式会社アスペックス



コンピュータ性能管理の専門会社として、設立以来27年にわたり、800 サイト以上のお客様のシステム安定稼働をご支援しております。また、 豊富なコンサルティング経験から得たノウハウを凝縮したパッケージ ソフト「ES/1 NEOシリーズ」の開発、販売、サポートを行っております。

ウイングアーク 1st 株式会社

WingArc 1st

国内4,700社の導入実績!安心導入可能なBIツール「Dr.Sum EA」・ 「MotionBoard」お客様の声に耳を傾けながら使いやすさを追求した 情報活用アプリケーションと高速データベーステクノロジーとの融合 がビジネスの更なる飛躍に貢献します。

JFE システムズ株式会社



電子帳票ソフトのデファクトスタンダード「FiBridgeシリーズ」。電子化 による業務効率や帳票運用に関するコスト削減はもちろん、今回、大 幅緩和されたe-文書保存ソリューションをご提案いたします。

株式会社スクウェイブ



スクウェイブはIT可視化をメイン事業としたコンサルティング会社に なります。評価した情報システム数は官民合わせて5000超、IT予算の 合計額は5兆円を超えています。本年よりIT可視化ベンチマークのクラ ウドサービスを開始します。

東芝情報システム株式会社 東芝情報システム株式会社

東芝情報システムは、組込みシステム構築、システムインテグレーショ ン分野における幅広いテクノロジーと長年培った豊富な経験と実績を 背景に、お客様のニーズに最適なソリューションをご提供する企業で す。

株式会社日立ビルシステム

BUILCARE

『日立クラウド型入退室管理システム』

日立の入退室管理システムは専用ソフトやサーバーが不要。運用面で も、サーバーの維持管理や保守・故障対応の手間が省け、低コストで サービスを導入・利用可能です。

リコージャパン株式会社

プリンティングにおける要求は、年々多岐に渡ってきています。リコー は、基幹システムからの帳票を印刷/電子化/保存/業務連係など、 トータルで対応する事にこだわり、業務コストダウンに貢献します。



2IDまで無料で使えるSFA「GrooForce」(グルーフォース)を中心に、労 務管理に最適なWeb勤怠管理「DigiSheet」(デジシート)、新サービス Web給与明細「PaySheetOnline」(ペイシートオンライン)をご紹介し

NECソリューションイノベータ株式会社



当社は、IT構築・運用・保守のアウトソーシングやクラウドサービス に加え、| T部門がビジネスに貢献するための | T戦略・企画・ | T サービスマネジメントに対して豊富な経験に基づいたサービスでご 支援します。

株式会社システムエグゼ



システムエグゼブースでは、今回2製品の展示を致します!

- ・最強のテストデータ生成ツール「テストエース」
- ・個人情報漏えい対策セキュリティ製品「SSDB監査」 是非ともお立ち寄りください。

東京システムハウス株式会社



1995年から210件以上の実績を持つレガシー資産オープン化サービ ス「MMS(メインフレーム・マイグレーション・サービス)」をご紹介致し ます。メインフレーム、オフコン資産のオープン化にご興味をお持ちの 方は是非お立ち寄りください。

株式会社ビーティス



地震予兆レポート、クラウド型 BCP 策定・運用支援、スマホで BCP「イ ンシデント・スマートブック」を軸に、位置情報管理「ろけもに」、安否 確認「e 安否」など、ビーティスの考える BCP 統合ソリューションをご紹 介します。

株式会社ブロード

BROAD

標的型サイバー攻撃への最新対策事例をご紹介。高度化、巧妙化する サイバーテロに対してセキュリティの基礎を抑えたソリューションを出

RICOH

ミールスポンサー

ソフトウェア・エー・ジー株式会社 ົງ software ∾ 株式会社ニューシステムテクノロジー 🍑 #ステセヒ ニューシステムテクノロジー

> 参加企業様、および出展内容は都合により変更になる可能性があります。 予め、ご了承ください。

株式会社ユニリタ

www.unirita.co.jp



〒108-6029 東京都港区港南2-15-1 品川インターシティA棟 TEL 03-5463-6383 汁 大阪事業所 〒541-0059 大阪市中央区博労町3-6-1 御堂筋エスジービル TEL 06-6245-4595 名古屋事業所 〒451-0045 名古屋市西区名駅3-9-37 合人社名駅3ビル(旧48KTビル) TEL 052-561-6808 TEL 092-437-3200 福岡事業所 T812-0013 福岡市博多区博多駅東2-2-2 博多東ハニービル

ユニリタグループ

株式会社アスペックス / 株式会社ビーティス / 株式会社データ総研 備実必(上海)軟件科技有限公司 / 株式会社ビーエスピーソリューションズ